

決算審査

(歳入)

質疑 土地売却収入の内訳はどのようになってるのか。また、25年度は処分可能な未利用地がどのくらいあり、その対応については、どのように考えているのか。

説明 土地売却収入については、旧駅東出張所跡地や下金井町の土地などの公売が4件で、約2億5,600万円、法定外公共物が47件で、約9千万円の収入となった。また、25年7月1日現在で、処分可能な未利用地は、13件、面積で約1万6千㎡であり、普通財産については、今後、市で活用方法を検討し、活用できないものは、積極的に公売していききたい。



▲旧駅東出張所跡地

要望 未利用地については、どのような活用方法があるのか、全庁を挙

げて検討し、適切に対処してほしい。

(歳出)

質疑 公共施設の敷地において、地権者に借地料を支出している場合が見受けられるが、今後これらの借地を解消していく考え方はあるか。

説明 恒久的な公共施設の敷地については、公有地化していく方針のもと地権者と交渉を行っており、24年度の実績としては、戸祭小学校において1,372㎡の借地を買収している。また、宝木市営住宅については、建て替え時期に借地を解消していく方向であり、すでに5名の地権者の理解を得ている。

質疑 小幡・清住地区の土地区画整理事業について、計画の概要及び進捗状況はどのようになっているのか。

説明 計画の概要については、25年度から39年度を事業期間として、16.9ヘクタールの事業

面積、26億4,500万円余の事業費で整備していくが、事業の進捗状況は、24年度末時点で、用地買収が13パーセント完了したところであり、今後は、換地設計の準備を行い、その後、建物移転や公共施設の整備を効果的に進めていく予定である。

企業会計決算審査
(水道事業会計)

質疑 24年度、松田新田浄水場と高間木取水場において実施した耐震化二次診断の結果と、その後の対応は。

説明 これらの施設は、供用開始から約35年が経過しており、24年度実施した耐震化二次診断で、主な施設の耐震補強を要するとの結果であり、25年度、耐震化に係る基本設計を行っている。特に、松田新田浄水場中央管理棟には、浄水場を一括管理するシステムが設置されていることなどから、最優先で耐震化

に取り組むべきと判断し、耐震化に係る実施設計を予定している。



▲松田新田浄水場

(下水道事業会計)

質疑 雨水貯留・浸透施設設置の促進に向けて、補助金を出しているが、これまでに、合計、何基が設置されてきたのか。また、上下水道基本計画改定計画で、25年度から5年間の補助件数の目標値を年平均2百基としているが、もっと積極的に推進すべきではないか。

説明 雨水貯留施設などの設置費補助事業は14年度から実施しており、現在までに1,125基が設置されている。計画の目標値は、これまでの実績を踏まえて算出しているが、今後は、特に浸水被害がみられる

地区において、雨水貯留施設などの設置に御協力をいただけるよう、より一層の推進に努めていきたいと考えている。

(中央卸売市場事業会計)

質疑 仲卸業者財務分析などの調査業務委託は、仲卸業者の経営努力を促す取り組みであると理解しているが、24年度は、何社の指導・支援を行ったのか。

説明 この調査業務で

は、仲卸業者から提出された事業報告書に基づき、財務基準に抵触した仲卸業者14社について、中小企業診断士による診断指導を行ったところである。

診断指導を受けた仲卸業者では、指導内容に基づき、会社の経営状況を改善させようとする姿勢が見られるなど、一定の効果があったものと考えている。

今後も、長期的な視野に立ちながら、仲卸業者の指導・支援に取り組んでいきたい。

宇都宮ジュニア未来議会を開催しました

8月8日に「宇都宮ジュニア未来議会」が行われました。市政や議会の仕組みを学び、自分たちの暮らす地域の課題を自由な発想や視点で捉え、自らの考えを提案することにより、まちづくりへの関心を高めてもらうことを目的に、17年度から開始し、今回で9回目の開催となりました。

参加したのは、市内の中高校生48名。当日は、事前研修でグループごとに練り上げた「ゆるキャラを活用した食育の啓発」や「SNSを利用した観光情報発信」、「自転車の安全な乗り方」など、17年度から開始し、今回で9回目の開催となりました。



▲市長・議長を囲むジュニア議員たち